

《随想》

《栗城のルーツ その五》

栗城 博



2回の調査と得られた資料から分かった範囲を纏めてみました。

栗城の祖は、文治5年(1189年)、源頼朝の奥州藤原征討の軍勢に加わった山ノ内家の家臣団の一員で、鳥山の姓で鎌倉から会津に入り土着しました。

この時の軍功により、山ノ内は、奥会津の伊北郷、金山谷、尾岐郷の地を源頼朝より貰い受けました。

鎌倉から会津に移り住んだ山ノ内は鷹巣山に中丸城を築き、そこを拠点に越後蒲原郡や魚沼郡に領地を拡げて行ったそうです。

栗城の祖は、本家山ノ内家のほか、沼沢山ノ内、川口山ノ内、野尻山ノ内等に仕え、多くの者が山ノ内家の重要な地位につき、奥会津に住んでいました。この当時は武士と農民の区別がなく、殿様から田畑、山林を管理する権利を貰い、生活したそうです。こうして戦国時代の400年が経ちました。

天正十七年(1579年)、伊達政宗が奥会津に侵攻してきました。

この時、山ノ内家には内紛があり本家と分家が争っていました。その結果、分家が伊達側に付き本家と戦いました。栗城一族も二つに分かれて身内同士が戦いました。

その戦いの様子が詳しく資料として残っているので、栗城姓を拾ってみました。



いろいろ端のある家

伊達・川口山ノ内の軍勢に「栗城筑後」「栗城藤九郎」「栗城帯刀」「栗城大蔵之助」「栗城筑後」「栗城土佐」の名があります。

山ノ内本家の軍勢に「栗城新次郎」「栗城主計」「栗城與八郎」等の名前があります。天正期以後奥会津で合戦が行われたのはこれが初めてで壮烈な戦いだったようです。

天正十八年七月(1580年)、豊臣秀吉が二十数万の軍勢を引連れて北条氏政父子の小田原城を攻略し落城させると、その足で伊達政宗の先導で白河から長沼に入り、猪苗代南岸から峠を越えて会津に入ってきました。

会津に四泊している間に、山ノ内、芦名、長沼、河原田の会津の領地を没収し、伊達の所領地の会津、安積、磐城の諸郡を没収し、これを蒲生氏郷に与えて、五日目には会津西街道(田島く鬼怒川く今市)を経て上洛して行ってしまいました。

この仕置によって、芦名、長沼、河原田、伊達は会津の地を去っていきました。山ノ内本家は越後魚沼郡上田に、分家は伊達家に仕え奥州白石に移住して行きました。

栗城の祖も武士の地位を失いました。しかし、土地の所有権と耕作権はそのままだったので、領主が変わっても、長く農業や林業を続けることができました。

つづく

不動産・建築業界のウラ話を聞きに来ませんか?

最初の1歩 セミナー

11月19日(日)AM10:00~PM16:30 場所:JRC3F セミナールーム

『いまさら人に聞けない!』という住宅ローンの仕組みや計画の進め方、専門予後の意味といったことをはじめに、この場でしかお話しできない不動産・建築業界のウラ話や成功・失敗事例もお話しさせていただきます。

不動産・建築・金融(住宅ローン等)には、日ごろ聞きなれない専門用語が多く、よく分からないままお話を進めてしまった結果トラブルとなることが多くあります。トラブルに巻き込まれることなく計画を進めるポイントについてもお話しさせていただきます。

思い描いた夢の計画を進めて行くために! 行動を起こす前に! ぜひ聞いていただきたいセミナーです。

例えばこんな時、あなたならどうする?

数年前にH様の所有されているお土地のご売却をお手伝いさせていただきました。昭和48年を最後に敷地の測量を行っていませんでしたので改めて現況の測量を行い、買主様へお引渡しをすることとなりました。

契約を締結した後、買主様の住宅ローンの本審査も無事に承認されたので 測量を行いました。

すると約1.5㎡広いことが判明しました?

さて、このようなコトがあった場合、一体どうするのでしょうか?

また、あなたならこんな時、どうしますか?

契約は既に締結しております。続きはセミナーの際にお話しさせていただきます。

♪参加者様の声♪

- ◇重要事項説明書を見るポイントが分かった
- ◇見積もりのことを聞いて勉強になった
- ◇仮契約と契約の違いが分かった
- ◇坪単価の考え方や支払いの仕方を理解できた
- ◇大手業者の裏話が聞けて良かった
- ◇住宅ローンに対する考え方が変わった

♪セミナーのスケジュール♪

- 10:00 ガイダンス
- 10:10 契約の前に注意すること
- 12:00 昼食(こちらでご用意させていただきます)
- 12:40 住宅ローンの落とし穴
- 14:30 上棟間もない建築現場のご案内
- 15:30 成功する建築とは
- 16:30 個別相談